



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年11月1日

上場取引所 東

上場会社名 亀田製菓株式会社
コード番号 2220 URL www.kamedaseika.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 COO (氏名) 高木 政紀
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO 兼 管理本部長 (氏名) 小林 章 TEL 025-382-2111
四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 2023年12月4日
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	44,067	△4.2	854	△49.5	2,144	△28.3	980	△47.5
2023年3月期第2四半期	46,020	16.1	1,691	33.9	2,989	91.7	1,865	8.2

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 3,117百万円 (△39.5%) 2023年3月期第2四半期 5,156百万円 (119.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	46.48	—
2023年3月期第2四半期	88.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	112,898	70,199	59.1	3,162.86
2023年3月期	111,182	67,996	58.3	3,076.11

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 66,684百万円 2023年3月期 64,855百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	15.00	—	40.00	55.00
2024年3月期	—	15.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	41.00	56.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	97,500	2.6	4,500	26.2	5,800	11.2	3,300	74.3	156.52

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	22,318,650株	2023年3月期	22,318,650株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,235,171株	2023年3月期	1,234,981株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	21,083,561株	2023年3月期2Q	21,083,672株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

当社は、2023年11月16日（木）に機関投資家及びアナリスト向け説明会をZoomウェビナーにて開催する予定です。

当日使用する四半期決算説明資料については、当日開催前に当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) キャッシュ・フローの状況	4
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、コロナ禍からの正常化プロセスの中で、緩やかな回復傾向が続きました。

一方で、国際情勢が緊迫する中で、原材料価格やエネルギーコストの高止まりや、想定を超える円安の進行等、先行き不透明感は払拭されていません。

国内の食品企業においては、こうした経済環境を踏まえ、厳しい舵取りが続いています。

こうした中、当グループは、経営環境の変化を踏まえ中長期の経営計画を見直し、新たに「中長期成長戦略2030」として発表しました。“Better For You”の企業として、お米の恵みを美味しさ・健康・感動という価値に磨き上げ、お客様の健やかなライフスタイルに貢献することをパーパス（存在意義）と位置づけ、お米の可能性を最大限に引き出し、社会に対して新価値・新市場を創造する“ライスイノベーションカンパニー”の実現を通じて持続的な成長と企業価値向上に取り組んでまいります。

既に国内米菓事業で培った技術やノウハウなどの事業基盤をベースとして、海外事業ならびに食品事業への先行投資を通じて事業領域を拡大しておりますが、将来的にはこれらの取り組みにより蓄積する技術やノウハウを強みに、アセットライトで高収益なビジネスモデルへの展開を目指しています。2026年度までにグループの収益基盤を整え、以降はその強固な基盤のうえに、もう一段の事業拡大を図ることで2030年度に向けた持続的な成長と企業価値向上に取り組んでまいります。

2023年度は、多様化する社会のニーズに応え、社会課題の解決に資する商品開発などを通じた新たな価値創造と、それを支える経営基盤の再構築に取り組んでいます。

国内米菓事業については、猛暑による需要の下押しが見られましたが、外出型消費の回復により総じて需要は底堅く推移しています。当社は、原材料やエネルギーコストの高騰による収益影響を踏まえ、前期に続く2回目の価格改定・規格変更を実施しました。依然として昨年度の急速なシェア拡大に対する反動減は見られるものの、これまでの価格競争から商品の独自性を高めた価値訴求型の競争戦略へと転換を図り、業績確保に取り組んでいます。

重点ブランドである「亀田の柿の種」「ハッピーターン」では限定商品の発売により需要を喚起するとともに、「無限エビ」はコンビニエンスストア向けの小容量品を発売するなど若年層獲得に向けた取り組みも推進しました。また、当社が培ってきた「お米」の加工技術を活かした新価値商品も発売するなどブランド価値の深化と商品価値の進化の両輪で取り組みを進めています。また、商品戦略に連動した生産能力増強に取り組むほか、販売面では米菓カテゴリーの価値向上に歩調を合わせる形で、適正価格販売や販売促進費用の効率化に取り組んでいます。

これらの取り組みの結果、重点4ブランドの売上高については「無限」シリーズが前年同四半期を上回った一方、「亀田の柿の種」「ハッピーターン」「亀田のつまみ種」は前年同四半期を下回りました。

他方、百貨店向け商品や土産物用商品を製造販売するグループ会社は、新型コロナウイルスの5類移行による市場回復効果もあり増収となりましたが、単体米菓事業の減収を補えず、国内米菓事業全体の売上高は前年同四半期を下回りました。

海外事業については、北米のMary's Gone Crackers, Inc.が生産活動の立て直しや供給体制の正常化、失注顧客との取引再開等による事業基盤の回復に取り組むとともに、値上げの実行等、収益改善に向けて取り組んでいます。一方アジアでは、ベトナムのTHIEN HA KAMEDA, JSC.における堅調な国内需要およびクロスボーダー取引拡大などが寄与し、海外事業全体の売上高は前年同四半期を上回りました。

食品事業については、アレルゲン28品目不使用の米粉パンは、機能性に加え米粉ならではの品質を訴求し、個人向けに加え業務用の取り扱い拡大にも取り組んでいます。また、植物性乳酸菌については、機能性を訴求し差別化を図ることで販路拡大に取り組むとともに、ライセンス契約先を通じた欧米への販売を見据えており、更なる拡大を目指しています。

長期保存食については企業備蓄が買い替え需要により堅調に推移する一方で、前年同四半期に地震等の影響で高まった個人需要やコロナ禍による各自自治体の在宅治療支援物資に採用された反動減の影響を受けました。これらの結果、売上高は前年同四半期を下回りました。

以上の結果、売上高は44,067百万円（前年同四半期比4.2%減）となりました。

営業利益については、単体米菓事業における価格改定・規格変更に加え、重点4ブランドの成長に向けたセールスプロモーション活動や生産能力増強によりプロダクトミックスの改善に取り組むとともに、販売促進費の効率的な執行、商品の絞り込みや外部生産委託の活用など生産効率の向上に継続的に取り組みましたが、前年同四半期の急速なシェア拡大に伴う増益の反動減を吸収しきれませんでした。また、百貨店向け商品や土産物用商品を製造販売するグループ会社は、コロナ禍からの正常化に伴う市場回復効果もあり増益となりましたが、単体米菓事業の減益により、国内米菓事業全体では前年同四半期比で減益となりました。

海外事業については、THIEN HA KAMEDA, JSC.において国内販売に加えクロスボーダー取引が拡大した結果、アジア地域の営業利益は着実に増加しました。一方で、Mary's Gone Crackers, Inc.においてオペレーションの正常化など黒字化に向けた取り組みを進める中で、一時的な構造改革に伴う費用が発生しました。これらの結果、海外事業全体では前年同四半期より損失が拡大しました。

食品事業については、植物性乳酸菌ならびに米粉パンの販路拡大に取り組んだものの、長期保存食の個人需要の反動減影響を補えず、前年同四半期比で減益となりました。

これらの取り組みの結果、営業利益は854百万円（前年同四半期比49.5%減）となりました。

また、円安に伴う一時的な為替差益が発生しましたが、営業減益に加え持分法適用関連会社であるTH FOODS, INC.の持分法による投資利益が減少した結果、経常利益については2,144百万円（前年同四半期比28.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益については、980百万円（前年同四半期比47.5%減）となりました。

〔補足情報〕

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	対前年同四半期比	
			増減額	増減率
売上高	46,020	44,067	△1,952	△4.2%
国内米菓事業	32,742	31,147	△1,595	△4.9%
海外事業 ※1	6,988	7,022	33	0.5%
食品事業 ※2	3,123	2,665	△458	△14.7%
その他（貨物運送等） ※3	3,165	3,233	67	2.1%
営業利益	1,691	854	△836	△49.5%
営業利益率	3.7%	1.9%		
国内米菓事業	1,626	1,303	△323	△19.9%
海外事業 ※1	△161	△269	△107	—
食品事業 ※2	91	△286	△377	—
その他（貨物運送等） ※3	135	107	△27	△20.2%

※1 海外事業は、海外子会社に加え、国内の輸出入取引を含んでおります。

※2 食品事業の主な内容は、長期保存食や植物性乳酸菌に加え、米粉パンやプラントベースドフード等であります。

※3 その他の主な内容は、貨物運送等であります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は29,631百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,635百万円減少いたしました。これは主に「商品及び製品」が627百万円、「原材料及び貯蔵品」が504百万円それぞれ増加した一方、「現金及び預金」が229百万円、「受取手形、売掛金及び契約資産」が1,878百万円、「その他」が659百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定資産は83,267百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,351百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産の「その他」が2,468百万円、「投資有価証券」が1,299百万円、投資その他の資産の「その他」が225百万円それぞれ増加した一方、「機械装置及び運搬具」が611百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、112,898百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,716百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は26,350百万円となり、前連結会計年度末に比べ627百万円増加いたしました。これは主に「電子記録債務」が188百万円、「短期借入金」が1,695百万円、「未払法人税等」が62百万円、「賞与引当金」が194百万円それぞれ増加した一方、「支払手形及び買掛金」が461百万円、「その他」が1,038百万円それぞれ減少したことによるものであります。固定負債は16,349百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,113百万円減少いたしました。これは主に「その他」が117百万円増加した一方、「長期借入金」が1,265百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、42,699百万円となり、前連結会計年度末に比べ485百万円減少いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は70,199百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,202百万円増加いたしました。これは主に「親会社株主に帰属する四半期純利益」980百万円および「剰余金の配当」843百万円により「利益剰余金」が136百万円増加したことや、「その他有価証券評価差額金」が213百万円、「為替換算調整勘定」が1,504百万円、「非支配株主持分」が374百万円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は59.1%（前連結会計年度末は58.3%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ280百万円減少し、6,693百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は4,545百万円（前年同四半期比432百万円の減少）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益や減価償却費、売上債権の減少による資金の増加の一方、為替差益や棚卸資産の増加、その他の負債の減少による資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は4,288百万円（前年同四半期比1,110百万円の支出増加）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は681百万円（前年同四半期比1,102百万円の支出減少）となりました。

これは主に、短期借入金の純増減額や長期借入金の返済による支出、配当金の支払額によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の通期の連結業績予想につきましては、2023年5月10日に公表した業績予想から変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,275	8,046
受取手形、売掛金及び契約資産	13,654	11,776
商品及び製品	2,791	3,418
仕掛品	791	810
原材料及び貯蔵品	3,874	4,378
その他	1,899	1,239
貸倒引当金	△20	△39
流動資産合計	31,266	29,631
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	18,188	18,150
機械装置及び運搬具（純額）	21,275	20,663
その他（純額）	12,516	14,985
有形固定資産合計	51,981	53,799
無形固定資産		
のれん	2,125	2,177
顧客関係資産	887	866
商標資産	795	777
技術資産	493	482
その他	1,080	1,086
無形固定資産合計	5,382	5,390
投資その他の資産		
投資有価証券	14,941	16,240
その他	7,654	7,880
貸倒引当金	△44	△43
投資その他の資産合計	22,551	24,078
固定資産合計	79,915	83,267
資産合計	111,182	112,898

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,571	4,110
電子記録債務	2,910	3,098
短期借入金	7,034	8,730
未払法人税等	498	561
賞与引当金	1,455	1,650
役員賞与引当金	64	49
資産除去債務	67	69
その他	9,119	8,081
流動負債合計	25,722	26,350
固定負債		
長期借入金	13,470	12,204
退職給付に係る負債	539	566
資産除去債務	282	289
その他	3,170	3,288
固定負債合計	17,462	16,349
負債合計	43,185	42,699
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,946	1,946
資本剰余金	170	170
利益剰余金	59,163	59,300
自己株式	△1,901	△1,902
株主資本合計	59,378	59,514
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	665	879
繰延ヘッジ損益	1	2
為替換算調整勘定	4,443	5,947
退職給付に係る調整累計額	366	340
その他の包括利益累計額合計	5,477	7,170
非支配株主持分	3,141	3,515
純資産合計	67,996	70,199
負債純資産合計	111,182	112,898

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	46,020	44,067
売上原価	33,987	32,885
売上総利益	12,033	11,182
販売費及び一般管理費	10,341	10,328
営業利益	1,691	854
営業外収益		
受取利息	35	72
受取配当金	28	29
持分法による投資利益	336	156
為替差益	846	952
その他	109	137
営業外収益合計	1,357	1,349
営業外費用		
支払利息	33	39
その他	26	19
営業外費用合計	59	59
経常利益	2,989	2,144
特別損失		
固定資産処分損	88	69
特別損失合計	88	69
税金等調整前四半期純利益	2,901	2,074
法人税、住民税及び事業税	917	567
法人税等調整額	△4	316
法人税等合計	913	884
四半期純利益	1,988	1,190
非支配株主に帰属する四半期純利益	122	210
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,865	980

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	1,988	1,190
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	213
繰延ヘッジ損益	3	0
為替換算調整勘定	1,320	285
退職給付に係る調整額	△77	△25
持分法適用会社に対する持分相当額	1,935	1,453
その他の包括利益合計	3,168	1,927
四半期包括利益	5,156	3,117
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,649	2,672
非支配株主に係る四半期包括利益	506	445

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,901	2,074
減価償却費	3,004	3,007
のれん償却額	84	86
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△7	13
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	7	24
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△524	△437
賞与引当金の増減額 (△は減少)	413	187
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△83	△15
受取利息及び受取配当金	△64	△102
支払利息	33	39
持分法による投資損益 (△は益)	△336	△156
為替差損益 (△は益)	△846	△971
固定資産処分損益 (△は益)	88	69
売上債権の増減額 (△は増加)	1,570	2,029
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,308	△981
仕入債務の増減額 (△は減少)	833	△326
その他の資産の増減額 (△は増加)	△764	607
その他の負債の増減額 (△は減少)	△621	△807
その他	110	6
小計	4,490	4,345
利息及び配当金の受取額	561	726
利息の支払額	△46	△54
法人税等の支払額	△26	△471
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,978	4,545
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,986	△4,191
投資有価証券の取得による支出	△6	△6
無形固定資産・投資等の取得による支出	△250	△135
その他	65	45
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,177	△4,288
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	441	1,666
長期借入金の返済による支出	△1,147	△1,265
配当金の支払額	△821	△842
非支配株主への配当金の支払額	△49	△71
その他	△206	△168
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,783	△681
現金及び現金同等物に係る換算差額	245	143
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	261	△280
現金及び現金同等物の期首残高	5,944	6,974
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,206	6,693

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	国内 米菓	海外	食品	計				
売上高								
顧客との契約か ら生じる収益	32,742	6,988	3,123	42,855	3,165	46,020	—	46,020
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	32,742	6,988	3,123	42,855	3,165	46,020	—	46,020
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5	761	21	788	2,888	3,677	△3,677	—
計	32,747	7,750	3,145	43,643	6,054	49,698	△3,677	46,020
セグメント利益 又は損失(△)	1,626	△161	91	1,556	116	1,673	18	1,691

(注) 1. 「その他」には、貨物運送等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額18百万円は、セグメント間取引消去18百万円であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内 米菓	海外	食品	計				
売上高								
顧客との契約か ら生じる収益	31,147	7,022	2,665	40,834	3,233	44,067	—	44,067
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	31,147	7,022	2,665	40,834	3,233	44,067	—	44,067
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	4	540	6	551	2,663	3,214	△3,214	—
計	31,151	7,562	2,672	41,386	5,896	47,282	△3,214	44,067
セグメント利益 又は損失 (△)	1,303	△269	△286	746	101	848	5	854

(注) 1. 「その他」には、貨物運送等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額5百万円は、セグメント間取引消去5百万円であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。